



尾久西だより

荒川区立尾久西小学校
発行日 平成28年4月6日
発行者 校長 末永 寿宣

No. 302 4月号

「たくましい子」に育ってほしい

校長 末永 寿宣

希望を胸いっぱいにした新一年生66名、全児童419名の登校とともに、本校の平成28年度がスタートしました。学級数12学級、わかき学級〇学級で、今年度も教育活動の充実に向け、職員一同全力で取り組んでまいります。保護者・地域の皆様方の本校教育活動への更なるご理解とご協力をお願いいたします。今年度は、以下の3点を基本理念として、すべての教育活動を「子供中心主義」で進めてまいります。

1 基本理念「子供中心主義とは」

- (1) 子供の人格とその独自性を認め、子供の活動・興味・自発性を尊重します。
- (2) 子供を大人中心・教師中心の考え方のみで教え、しつけるのではなく、子供の発達を見極め、可能性を伸ばすことをいつも念頭において指導します。
- (3) 地域と一体となって、すべての子供をすべての教職員で育てていきます。

2 尾久西小学校が目指す子供像 ○「たくましい子」

3 たくましい子に育てるための3つの大事

- (1) 何があってもへこたれない子に育てることが大事です。
社会という荒海に出れば、人間関係や健康問題、金銭関係の悩みや仕事上のトラブル、さらに、日本では、阪神淡路大震災や東日本大震災などの大災害が実際に起こり、異常気象によって、局地的な災害も起こっています。自分の身にいつ何が起こるかは、誰にもわかりません。これからの時代を生きる子供たちに「何があってもへこたれないたくましさ」を育てていきましょう。
- (2) 子供を取り巻く大人の「考え方」が大事です。
精神的なたくましさは、ポジティブ思考から生まれます。何があっても「負けてたまるか」とか「何とかなる」と子供が思えるようにしていきましょう。
- (3) 意図的に場を設定し、体験させることが大事です。
町会などの地域コミュニティが設定する体験行事や荒川区教育委員会が設定する体験学習を最大限活用し、子供の体験活動を推進していきましょう。

4 子供のたくましさを育てる3つの習慣

- (1) 何があってもアタフタしません。
子供や保護者、地域の方、教職員にとって、困った出来事は必ず起こります。内心はドキドキ・ハラハラしていても、不安でいっぱいでも、できれば子供の前では落ち着いて振る舞いましょう。大人がデンと構えていると、子供は何があっても大丈夫なんだと安心します。
- (2) 困った出来事には「だいじょうぶ、なんとかなる」と口に出します。
困った出来事が起こったとき、落ち着いて振る舞うと同時に「だいじょうぶ、だいじょうぶ」とか「なんとかなる」「まけないぞ」と口に出して言いましょう。これは、子供にそう思わせるというだけではなく、自分自身を励ます言葉にもなります。
- (3) 過去に経験した試練や苦労話を笑顔で子供に語ります。
これまでに経験した困った出来事を、子供に話して聞かせましょう。「あの時は大変だった。でもみんなで助け合った。なんとかなるものだ。」と。

どんな出来事に遭遇しても、あきらめずに頑張ればなんとかなるものだと、子供に伝えていきましょう。尾久西小の子供をみなさんで「たくましい子」に育てていきましょう。